

ヤマユリ通信

開花号
vol.5-2

麻生区地域課題対応事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 H25. 9. 27 発行

◆もくじ◆

- 講習会案内：庭でヤマユリの鉢植えを育ててみませんか。・・・1
- ヤマユリ開花特集：麻生区の花“ヤマユリ”爛漫！・・・2、3、4
 - 王禅寺界隈：身近なところにひっそりと 黒川界隈：自生ヤマユリの原風景を求めて
 - 岡上・梨子ノ木緑地：自然への畏敬と向き合うことへの覚悟！ ほか
- そうなんだ 問答：あなたの庭にありますか・・・4



筑波嶺のそ百合（ゆる）の花の夜床にも
愛（かな）しけ妹そ昼も愛しけ
大舎人部千文（おおとねりべのちふみ）

講習会案内



庭でヤマユリの鉢植えを育てませんか

ヤマユリの球根鉢植えの時節が参りました。講習会を左記の要領で開催します。難しい用土の配合の仕方から育成管理の仕方までを講義と実習で手ほどきいたします。

○開催日時：11月20日（水）13時30分～16時

○会場：麻生区役所 会議室・広場
○定員：30名（区内在住）：定員オーバーの場合は抽選

○参加費：1,500円（材料費：球根1球、鉢（8号）、用土（4種））

○参加希望者：往復はがきに（一人（1家族）1通）

①氏名（ふりがな）、②〒住所、③電話番号

○締め切り：10月31日（必着）

○応募先：〒215-8570（麻生区万福寺1の5の1）

麻生区役所地域振興課ヤマユリ鉢植え講習会担当行き（明記のこと）

TEL：044-6665-5370

FAX：044-6665-5201

◆留意点：当日欠席でも、仕立て鉢引き替えて参加費をいただきます。

身近なヤマユリ・ヤマユリ



今年は猛暑のせい、場所によっては約1週間ほど開花が早まりました。緑地や公園、そして里山の自生地のヤマユリを、例年通りに楽しむことができました。

そのなかで王禅寺公園でのヤマユリとの出会いには、驚きと感動を覚えました。

ここは、我が愛犬が元気なころは、良く散歩に通った公園です。昨年11月に当会が新植栽地を選び、公園裏の南西斜面にヤマユリの球根10球を植え、今年はそのうち6球が見事に花を咲かせました。

7月初旬、開花の確認のため公園に向いたと

きに、二人のご婦人が公園内を清掃していました。挨拶がたがた話を伺うと、近所にお住まいで時々活動しているそうです。雑談の中で、私が「あそこヤマユリの植栽活動をしています」と説明すると、一人の方が「あの植栽地のひとつ奥の散策路にヤマユリが咲いていますよ」と。あんな日陰の樹林の中に？

早速、半信半疑で探しに行きました。公園の中央にある散策路の一番高いところから数分下った柵の内側に、ひと株のヤマユリがしっかりと確かに咲いていました。二つの大輪を重そうに付けて・・

“こんな身近なところに自生していたとは・・”。太い茎と花の大きさから推測すると5年以上は経っている円熟期の株と思われる。

＊ ＊

ところで、他にも昨年には気が付かなかった場所に、開花しているヤマユリが確認ができました。そのひとつは、早野緑地の炭焼き小屋近くの竹藪の中です。なんと竹と



ヤマユリの花々がハーモニイを奏でているようではなかなかの風情でした。

もう一カ所は、百合丘第一緑地です。季節になりますと黄色いイチヨウの落ち葉で散策路は一面黄色の絨毯に・・。その斜面に数株のヤマユリが7月中旬に花を咲かせていました。

この緑地は、私の百合丘散歩コースのひとつになっけていますが、昨年は全く気が付きませんでした。このように私達の身近にはまだ逞しく命を育み、生き延びているヤマユリが散見されます。来年は今年見付けたヤマユリはどうなっているのでしょうか。そして新たなヤマユリとの出会いがあるのか？ 楽しみです。

(山田栄一・記)

黒川界限

自生ヤマユリの原風景を求めて

黒川はるひ野地区では、今年もヤマユリの開花を7月中旬から8月の初旬にかけて見ることができました。この地区の特徴は、昔からの自然が、特別緑地保全地区や公園として多く残されていることです。そして、ヤマユリが逞しく自生しています。地域の人達もその価値を認め、下草刈り等の手入れをしている様子が見られます。ヤマユリの生育は、ほぼ全域にわたりますが、環境を選ぶ性質から適地は限られています。ここでは、その一部を紹介しましょう。

◆黒川谷ツ公園

小田急多摩線のはるひ野駅北口から県道に出て京王相模原線のガード手前を入ると、両線に挟まれた谷となり湧水の池と小川があります。



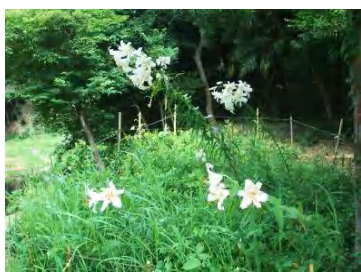
小川沿いにヤマユリを5本、その先の坂道を登ると10数本の左側線路寄りに確認

ます。

◆黒川よこみね緑地

はるひ野小中学校から西へ約500m。整然と並んだ住宅地の中を進むと、広く開けた緑地が見えてきます。

フェンスで囲まれています。散策コースとして、日常的に見学者が多く訪れる緑地公園です。湧水を水源とする水辺のあ



る豊かな里山です。

◆汁守神社

神社西側の道路に沿った斜面、入口の通路の両側 右側6本、左側5本を確認



周辺は良く手入れをされている。もう少し増えても良いように思えるが日照の条件が影響しているのかもしれない。

この公園は、自然保護を目的に管理されているため一般開放は、月に2〜3回のみです。事前に調べておく必要があります。

ヤマユリは中央部

自然への畏敬と向き合いふの覚悟！

私事で恐縮だが、8年前から厚木市の隣・愛川町で小さな菜園をやっている。まったくの初心者だったため、土地の古老に野菜作りの実技講習をしていただきました。その古老から聞いた忘れられない言葉がある。「俺はよオ、50年以上百姓やってきたけど、50年やつたつて、たった50回しか作ってねえんだよな」

自然を相手にしてきた者だけが言える言葉ではないでしょうか。

（閑話休題）

さて本題の梨子ノ木緑地のレポートです。今年の開花状況は、優に百を超える花が咲きました。わたし達がこの地で植栽を始めて6回目の開花です。そして写真のように、たくさんの方が見に来てくれるようになりました。

最初の植栽場所は、1年目は成功したのですが、翌年は病害虫に冒され壊滅状態でした。やむなくそこをあきらめ、明るい西斜面で再出発しました。毎年20〜30球の球根を植え付け、2年目、3年目と徐々に株数が増え、一株につき花の数も2輪3輪と増えてきています。さらに、植栽開始以前に植えた古株のいくつかは、木子が芽吹き始めています。

球根の植え付けはある意味、自然との闘いです。植え付けた翌年の夏には、ほとんどが花を付けますが、翌年には、その何割かは茎立ちもしないで頽れ（たちかれ）、せつかく茎立ちしても、その何割かはシンクイムシに食いついて枯死したりしてしまいます。

「それが、自然の摂理だよ」と言ってしまうのは簡単です。でもかつてのような大群落は望めなくても、「麻生区内どこでもヤマユリが見られるようにしたい」という当会の趣旨を実現したいと日々励んでいます。

“あと何年やれば我々の手を離れ、自生してくれるのかなあ？”と、時には投げ出したくなることもありますが、そんな際は、先の古老の言葉を思い出すことにしています。「なあに、まだたつたの6回じゃないか」と。そして10年、20年後。見学者に問われたら、「20年やつてますが、実はまだ20回しか咲かせてないんですよ」と言えるようになるために。

（高橋雄介・記）

虹ヶ丘

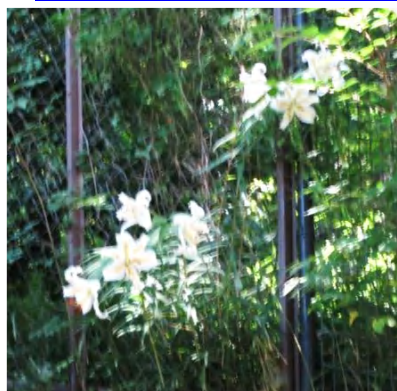
東京都市大学原子力研究所構内にも



◆北へ分岐した三沢川の源流から調整地域の看板近辺までの田畑を隔てた向かい側の斜面

7月下旬、稲が育ち緑一色の田園風景となる。今年は田圃の近くで20本程度を確認。昨年は源流の近くで18本確認したが、今年

は5本のみ 雑草がかなり繁茂していました。ヤマユリは山野草です。適地であれば普段は人が入らない所にも咲きます。その中には危険な所もあるので注意が必要です。足場の悪い所、蜂の巣など。（上原俊彦・記）



仲間とやっている畑に通う途上にある東京都市大学原子力研究所の正門のすぐそばに、ヤマユリの一群体を見つけたのは、昨年の夏のことです。

自生のヤマユリが、自然林と玄関口とを分けるフェンス内に芽吹いていたため、草刈りを免れたか、ひっそりと咲いているではありませんか。茎立ちが2本でしたが、花が見事であつたため目についたのでしょう。

今年、どうか、と6月下旬ごろから注目していたところ、茎立ちが昨年より増えて5本になり範囲もフェンスから離れたところにまで広がっていました。

それぞれが蕾を多く付けていて大いに期待

を持たせ、7月中旬には、見えたえのあるヤマユリの開花となりました（写真）。

自然林の中にはもつと多くのヤマユリがあるかもしれないが、大学構内でもあり、残念ながらそれ以上は、判別をすることは出来ませんでした。

当研究所の門の前の並木通りは、地元の方の朝の散歩道になっていきます。花の時期に少し注視していると、咲

き誇るヤマユリの姿を見られると思います。これまで、幸いあまり注目もされておらず、ひっそりと咲いている状況です。木子も発芽していますので、来年は今年以上になるのではないのでしょうか。

暑い最中の開花ですが、小さな幸せを見つけては、どうでしょう。（松田 肇・記）



万福寺おやしる公園

今年以降雨量が少なく猛暑が続いて生長が遅く、開花が心配されましたが、反対に昨年に比べ5日も、早く開花が始まりました。日当たりがよく若い株のある崖下から始まり、東側の植栽地へ、そして一番古い中央部へと開花が続きました。優雅で薫り高い大輪が咲き乱れました。

おやしる公園全体で優に百株を超える数となり、かつての麻生区内は、このような風景が散見されたことでしょうか。暑さが続き花の寿命が短くなり、残念ながら月半ばで咲き終わってしまいました。

これからは種(蒴)が実りに向けて、日々生長し始めます。そのままにしておくと蒴の中の種を害虫に食べられてしまうため、9月には袋かけ作業を行います。12月には収穫し、種まきへの準備を進めます。この緑地がヤマユリの自生地になることが待たれます。



開花展 麻生区役所

ヤマユリの開花に合わせて今年も、麻生区役所の2階ロビーで7月2日から19日までの2週間余り、ヤマユリの鉢植えとパネルの展示会を開催しました。

麻生区内のヤマユリ開花マップをはじめヤマユリの特徴、育て方、麻生区内の緑地での開花写真のほか、麻生ヤマユリ植栽普及会の活動の様子を紹介したパネルを新しく作成・展示しました。期間中は、咲き終わった鉢と咲いた鉢の入れ替えを行い、常に咲いたヤマユリを鑑賞いただくことができると思います。当会の広報紙「ヤマユリ通信」の配布のほか、麻生区のホームページでヤマユリ植栽普及促進事業を紹介する検索カード50枚が、4、5日で行なくなり、急ぎ追加印刷するほど、区民の関心の高まりを確信しました。(福井捷介・記)



そうなんだ 問答

あなたの庭にはありませんか？

オオキンケイギク と オオハングウソウ

「かわさき自然と共生の会」の例会で披露された、特定外来生物2種のお話です。

ともにキク科の植物で、繁殖力が強く、荒地でも生育できるため日本の在来植物を駆逐してしまおうです。

特にオオキンケイギクは、観賞植物のキバナコスモスに似ているため、河川敷や道端に咲いていると、庭に移植してしまう人もいます。

環境省によって特定外来生物に指定された植物は、許可なく栽培したり保管、運搬、譲渡が禁止されています。ご注意ください。

オオキンケイギクは5月から7月、オオハングウソウは7月から9月が花期です。実を結ぶ前に根元から引き抜いて焼却処分し、皆で駆除するようしましょう。



▲オオキンケイギク



▲オオハングウソウ

◆オオキンケイギクの特徴◆キバナコスモスとよく似ているが葉の形が異なる。キバナコスモスの葉は鳥の羽のようで深く裂けている。それに対しオオキンケイギクの葉は細長いヘラ状。そして最大の違いは花期。キバナコスモスの秋に対し、オオキンケイギクは初夏です。

◆オオハングウソウの特徴◆長尺の多年草で、10〜14枚の細長く黄色い花弁で外側に垂れ下がっています。葉には毛があり触るとざらつく。

*「ルドベキア」という名で園芸店で売られているものは、1年草で、許可されているようです。(高橋雄介・記)

会員募集

地域のボランティアのみなさんと一緒に麻生区の花“ヤマユリ”に親しみながら緑地で汗を流しませんか。

年会費：1,200円

定例会議：原則、毎月第2木曜日 午後2時～4時

会場：交流館 やまゆり

植栽活動：指定の各緑地(月に1回～2回)

★問合せ・連絡先：当会会長(事務局) 貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

10～12月の主な予定

10～12月：新植栽地：地域ボランティアと協働作業

10月～12月：ヤマユリ植栽地整備・球根植え付け(5か所)

11月20日：ヤマユリ鉢植え講習会(球根編)

12月末：広報紙「ヤマユリ通信 植栽号」発行